

# 愛知学泉短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 愛知学泉短期大学の概要

設置者	学校法人 安城学園
理事長	寺部 暁
学 長	安藤 正人
A L O	山口 吉男
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	愛知県岡崎市舩越町上川成28

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		40
幼児教育学科		80
生活デザイン総合学科		160
	合計	280

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

愛知学泉短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

創立者の寺部だいの自伝『おもいでぐさ』が出版されており、入学者、非常勤講師全員に配布されるなど、建学の精神・教育理念を具体的に伝えるよう努力している。

教育内容と教育環境の改善に教職員が一体になって取り組んでいる姿勢がキャンパス全体にみられる。

一級河川沿いに位置するキャンパスは緑に恵まれ、清潔に管理されている。学生も明るくまじめで、落ち着いてキャンパス生活を送っており、サークル活動も活発に行われている。教職員との交流も自然体で、日常の教育の実施体制が円滑に行われている。

平成17年度には、卒業生による母校評価のアンケートで満足度を調べるなど、学生の卒業後の評価についても努力している。

全体的にきめ細かな学生への支援が行われている。職場の雰囲気は明るく、対人関係は良好である。

将来計画に基づいて必要な投資が行われていると同時に、改組転換、キャンパス統合を積極的に進めている。

今後さらに、定期的かつ組織的な自己点検・評価のシステムの構築を推進し、また相互評価あるいは外部評価を視野に入れた取り組みも期待される。

### 2. 優れていると判断される事項など

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

社会の変化や時代の要請に迅速に応え、学則の見直しや改組転換などを積極的に行って

いる。

評価領域 教育の内容

全ての教員が「事業計画書」を作成し、その結果を学内に公表している。  
食物栄養学科において「医事管理士・医療管理秘書士」の資格取得科目を設置している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

授業への欠席が2回以上の学生に対しては、担当教員が適切な指導を行い、退学者を出さない工夫をしている。

評価領域 社会的活動

岡崎中心市街地活性化事業「サテライトオフィス」へ運営協力をし、社会的活動を積極的に行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

幼児教育学科必修科目において多人数クラスの授業が見受けられるので、その改善が望まれる。  
これまでのシラバスの内容を改善し、その充実を図ることが望まれる。

評価領域 学生支援

カウンセラーなどの専門家による学生のメンタルケアやカウンセリングの体制を整備することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、明治末期の官尊民卑・男尊女卑の風潮の中で、創立者が女性の潜在能力の無限性を信じ、真心・努力・奉仕・感謝の実践を行ったことを受け継ぐものである。また、教育理念は、庶民性・先見性であって、それらが寄附行為の目的に明記されているとともに、教学・経営両面でその確立に不断の努力を傾注している。

建学の精神・教育理念の今日的意義については、理事会で不断に検討され、教育目的・目標については、自己点検評価委員会で点検が行われているほか、教授会などの教学諸機関で全学的に議論が行われている。

毎年、予算編成時に教学担当者が教育計画案を作成し、理事会が審議決定しており、このプロセスで教育目的・目標の検証が行われている。また、これらを教職員・学生が共有する日常的な場として授業や諸行事が設定されており、それらの機会を通して理事長、学長が教育目的・目標について周知を図っている。

### 評価領域 教育の内容

食物栄養学科、幼児教育学科の教育課程は、厚生労働省・文部科学省の諸規定・基準を充たし、体系的に編成されている。完成年度を迎える生活デザイン総合学科の教育課程についても、ベーシックからオープンまでの7フィールド145科目にわたっており、学生の多様なニーズに対応できるよう体系的に編成されている。

食物栄養学科にあっては、特に「医事管理士・医療管理秘書士」科目を設置し、病院栄養士としての職能育成を図っている。幼児教育学科にあっては、実践能力養成のために

独自の複合科目「幼児学ゼミナール ・ 」を設定し、複数担当できめ細かい支援・指導を行っているほか、学修成果を総合的に発表する場として、地域に開かれた「こどもまつり」を展開している。

#### 評価領域 教育の実施体制

教員数は、短期大学設置基準を充たしている。専任教員の年齢構成、教授・助教授・講師の数比もおおむねバランスが取れている。

岡崎・桜井両キャンパスの校舎面積は、短期大学設置基準を十分に充たしており、講義室、演習室、実験・実習室などの設備も充実し、活用されている。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法は適切であり、成績評価、単位の取得状況も妥当な範囲にあり、教育目標を達成しようとする努力がみられる。

#### 評価領域 学生支援

前・後期のオリエンテーションでは、教務委員が科目選択や単位取得などについてのガイダンスを行うとともに、指導教授による履修指導が個別に行われている。

学生生活支援については、学生部長を中心とした教員を構成メンバーとする学生部委員会と、事務部門の学生課、教務課、総務課、就職課が連携して支援にあっている。

就職相談室には、2名の専任職員、1名の非常勤職員が常駐し、担当教員と連携しながら支援を行っている。

#### 評価領域 研究

研究成果発表の場として、紀要や大学広報が定期的に刊行されているほか、全教員が年度内の諸活動を報告する「事業報告」の提出が求められている。ウェブサイトでは研究活動などを公開している教員もみられる。

#### 評価領域 社会的活動

全学を挙げて「まちづくり」をキーワードにして教育活動を展開している。地域社会の要望に応じて、公開講座、生涯学習授業、正規学習を公開している。近隣自治体への各種委員、審議会委員の派遣、市町村主催の研修会、講演会への講師派遣、また、商工会

議所と岡崎地区4大学による「岡崎大学懇話会」において地域活性化のための研究を行っている。

大学・短期大学合同のオーケストラの公演活動、学生会の矢作町伝統行事「花の塔」祭への参加、学生ボランティア活動などを積極的に奨励し、学科によりボランティア活動時間をポイント化して単位認定を行っている。

#### 評価領域 管理運営

学校法人の意思決定機関としての理事会、常務の執行を統括する常任理事会、理事会の諮問機関としての評議員会は、ともに適切に設置され、運営されている。また、教授会、教学に関わる6つの各種委員会などの校務組織についても効率的に運営されている。大学とキャンパスを共用している短期大学の事務組織は、大学と合同の職員配置で運営されており、教員との連携は円滑に行われ、学生からの信頼も厚い。職員の研修会が毎年行われているが、組織的なスタッフ・ディベロップメント(SD)活動は今後の課題である。

#### 評価領域 財務

理事会が策定した中・長期計画に基づく事業と日常業務の予算措置や執行は、適切に行われている。

#### 評価領域 改革・改善

平成17年度に「学校法人安城学園自己点検・自己評価委員会規程」を定めるとともに、実施組織を整備・確立して本格的に取り組もうとしている。